



目次

- | | |
|----------|--------------|
| ① 支部通常総会 | ④ 部会活動報告 |
| ② 行政ニュース | ⑤ 各部会行事予定 |
| ③ トピックス | ⑥ 事務局からのお知らせ |
| | ⑦ 会員名簿 |

中部支部ニュース

支部通常総会

第9回 支部通常総会

一般社団法人 日本建設機械施工協会中部支部第9回(名称変更前から通算すると第63回目)通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から小規模での開催とするために会員の皆様から議長への委任状を頂き、所輝雄支部長他7名にて令和2年5月20日(水)桜華会館「梅の間」に於いて開催いたしました。

参加者のソーシャルディスタンスを保ちながら所輝雄支部長の挨拶で始まり、その後、所輝雄支部長が議長として議事を進行し、以下の議案について承認可決されました。

なお、今年度は例年行っています本部表彰規程による表彰、建設機械優良技術員表彰、総会終了後の講演会及び懇親会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりました。

各表彰者は次頁のとおりです。



支部長 所 輝雄



1. 議題

【決議事項】

- | | |
|-------|-----------------------|
| 第1号議案 | 令和元年度 事業報告承認の件 |
| 第2号議案 | 令和元年度 決算報告承認の件 |
| 第3号議案 | 1) 令和2・3年度運営委員選任に関する件 |

【報告事項】

- | | |
|-------|-----------------|
| 第3号議案 | 2) 運営委員会の報告の件 |
| 第4号議案 | 令和2年度 事業計画に関する件 |
| 第5号議案 | 令和2年度 収支予算に関する件 |

2. 本部表彰規程による表彰

1) 支部団体会員

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 60年表彰 | 太啓建設株式会社 |
| 50年表彰 | 東急建設株式会社名古屋支店 |
| 40年表彰 | 株式会社荏原製作所中部支社
豊国工業株式会社中部支店 |
| 30年表彰 | (該当なし) |
| 20年表彰 | (該当なし) |

2) 永年役員表彰

- | | |
|-------|------------------|
| 奥田 一巳 | 元大旺新洋株式会社名古屋副支店長 |
| 葛谷 政勝 | 株式会社丸徳鉄工代表取締役 |
| 三宅 豊 | 株式会社近藤組顧問 |

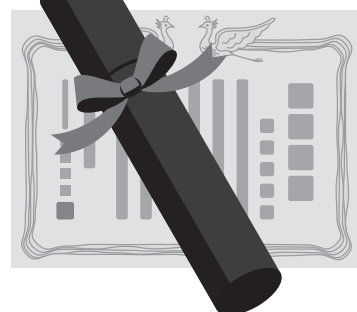
3. 令和2年度 建設機械優良技術員表彰

【優良建設機械運転員】

- | | |
|------|-----------|
| 榎本 竜 | 株式会社キクテック |
| 平川 豊 | 三幸土木株式会社 |

【優良建設機械整備員】

- | | |
|-------|----------|
| 吉川 寛巳 | 大和機工株式会社 |
| 野口 勇 | 丸門建設株式会社 |
| 若林 豊和 | 水谷建設株式会社 |



国土交通省 中部地方整備局 中部i-Construction研究会を設立します

1. 中部i-Construction研究会の設立趣旨

国土交通省では、建設生産システムの効率化・高度化を目指し、CALS／ECの行動計画、情報化施工推進戦略などがまとめられ、建設産業における生産性向上に取り組んできました。

一方で、わが国において少子高齢化が進み、建設産業においても労働者不足が懸念されるなか、この危機的状況を解決するためイノベーションを喚起し、建設現場を変えるチャンスとし、抜本的な生産性向上への取り組み「i-Construction」を推進しています。

これら建設産業の生産性向上にむけ、中部地方整備局においては、「建設ICT導入研究会（2008年11月）」を設立（2011年1月には「建設ICT導入普及研究会」へ改名）、その後「中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム（2015年4月）」、「i-Construction中部ブロック推進本部（2017年2月）」の立ち上げ、更なる中部地方におけるICT施工の活用を推進するため、全国で初めて「ICTアドバイザー制度（2017年6月）」を創設するなど、受・発注者および開発者など産官学の関係者が一体となり、技術普及・現場支援・技術研究に取り組んできました。

これからは、直轄事業でこれまで培ってきた技術・ノウハウを地方に還元し、ICT施工の裾野拡大を図りつつ、先端技術の活用により、中部地方におけるi-Constructionの更なる推進へ向け、「建設ICT導入普及研究会」と「中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム」を合併させ、建設ICT導入普及研究会と豊富な経験と知識を持ったICTアドバイザーの新たな活躍・研究の場として、ICTアドバイザーが中心となって運営を行う「中部i-Construction研究会」が設立されますので、活動内容等について紹介します。

2. 研究会の目的及び活動内容

研究会は、中部地方におけるi-Constructionの更なる推進にむけ、建設現場における自発的な活動を支援し、建設産業の生産性向上を図る事を目的に、以下の各号に掲げる活動を行います。

- ①更なる生産性向上を図る新技術の建設現場への適応に向けた技術支援
- ②i-Constructionに関する技術支援及びノウハウなどの情報提供
- ③i-Constructionに関する課題及び疑問の情報収集と交流支援
- ④各種研修・講習会・現場見学会等の実施を通じた普及および裾野の拡大
- ⑤その他、研究会の目的を達するために必要な活動

3. 研究会の組織構成

研究会は、以下の部会を設け、目的のため各部会が協働して活動を行います。研究会活動イメージを図-1に示す。

- ①多様化部会：新しい技術の現場適応化に向けた技術的な支援等
- ②FAQ部会：課題の情報収集、アイデアや解決策など不慣れな技術者との交流支援
- ③支援部会：ICT施工のノウハウなど建設現場での技術的な支援及び情報提供
- ④普及部会：各種研修・講習会・現場見学会などを通じて建設産業における更なる建設生産性の向上及び地元企業や地方自治体への裾野拡大に取り組む

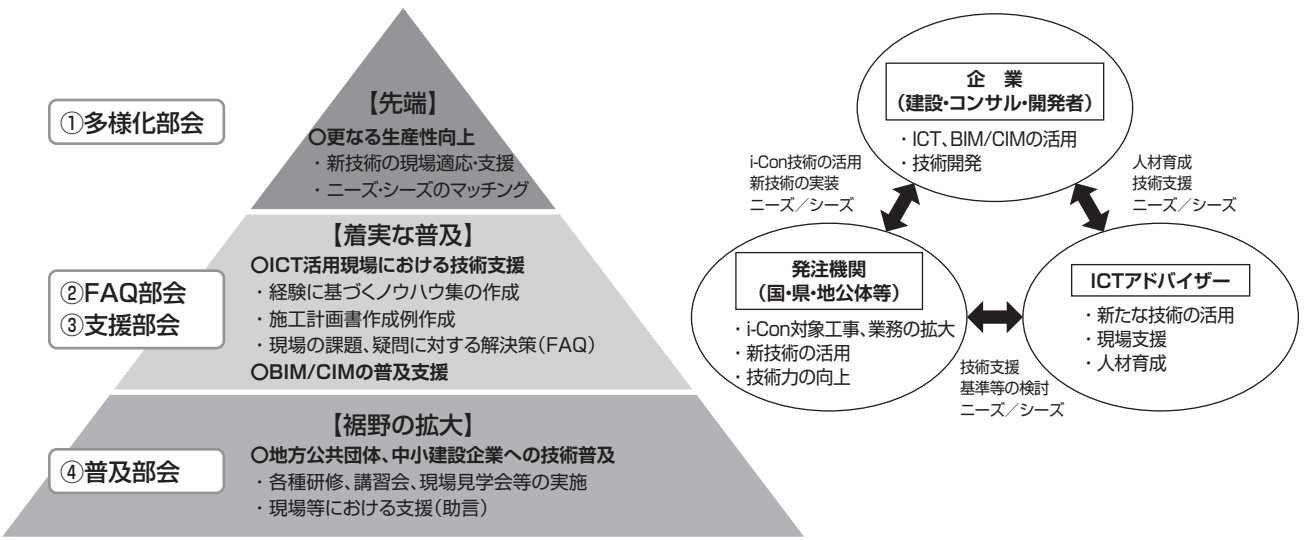


図-1 研究会の活動イメージ

4. ICTアドバイザー制度の枠組み

発注者である自治体や特殊法人等及び、受注者である地元建設会社等が、ICT技術の先駆者であるICTアドバイザーから、自主的に技術取得や能力向上へのアドバイスが受けられる仕組みを作り、中部地方における更なる建設生産性向上(i-Construction)を図る。図-2にICTアドバイザー制度の枠組みを示す。

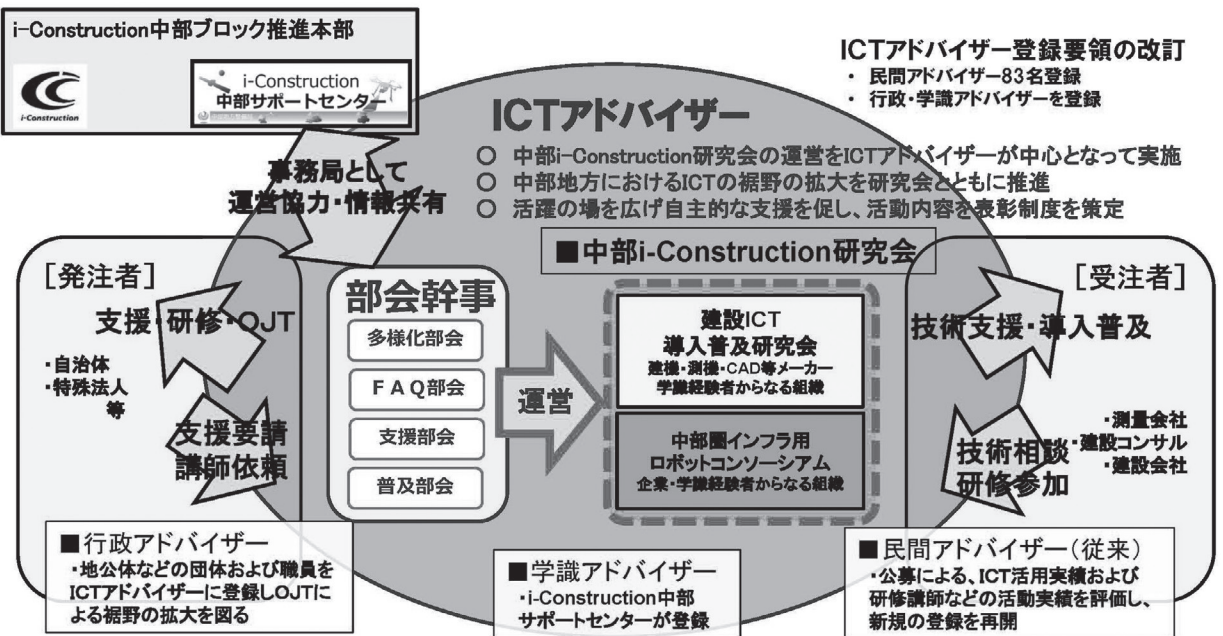


図-2 ICTアドバイザー制度の枠組み

5. 当面の目標

ICT施工(土工)の普及率は、平成28年度から令和元年にかけて上昇しているものの、伸びが鈍化しており、新規参入企業を増やす必要がある。また、従来のICTアドバイザーからのアンケート結果より、受注者がICT施工の3D設計データだけでは現場の完成形をイメージし難く、始めて取組もうとしても意欲が沸かない等の課題が浮き彫りとなり、3D設計に対応できる技術者が不足している事が原因であると考えられる。また、ICT施工(3D設計)に関する技術は日進月歩であるため、受・発注者ともに継続的なスキルアップが必要である事から、当面の間は、以下の目標に向かい活動していきます。

アドバイザー制度を活用して、ICT施工初心者(企業)に対する啓発活動及び3D設計データに対応できる技術者を育成する。

- (1)ICT施工初心者(企業)にICT施工の魅力、メリット(生産性向上、3D設計を用いた施工・管理方法等)をPRする研修を実施し、ICT施工の取組を再強化する。
- (2)3D設計に対応できる技術者(受・発注者)を育成する研修を強化し、発注機関の技術者を行政アドバイザーとして育成する事を目指す。

6. 最後に

今後は、新たなスキームである「中部i-Construction研究会」を基に、ICTアドバイザーに協力頂ける強みを最大限生かして、i-Constructionの更なる推進に向けて邁進していきます。

中部地方整備局のICT活用工事の工種拡大に向けたロードマップを図-3に示す。

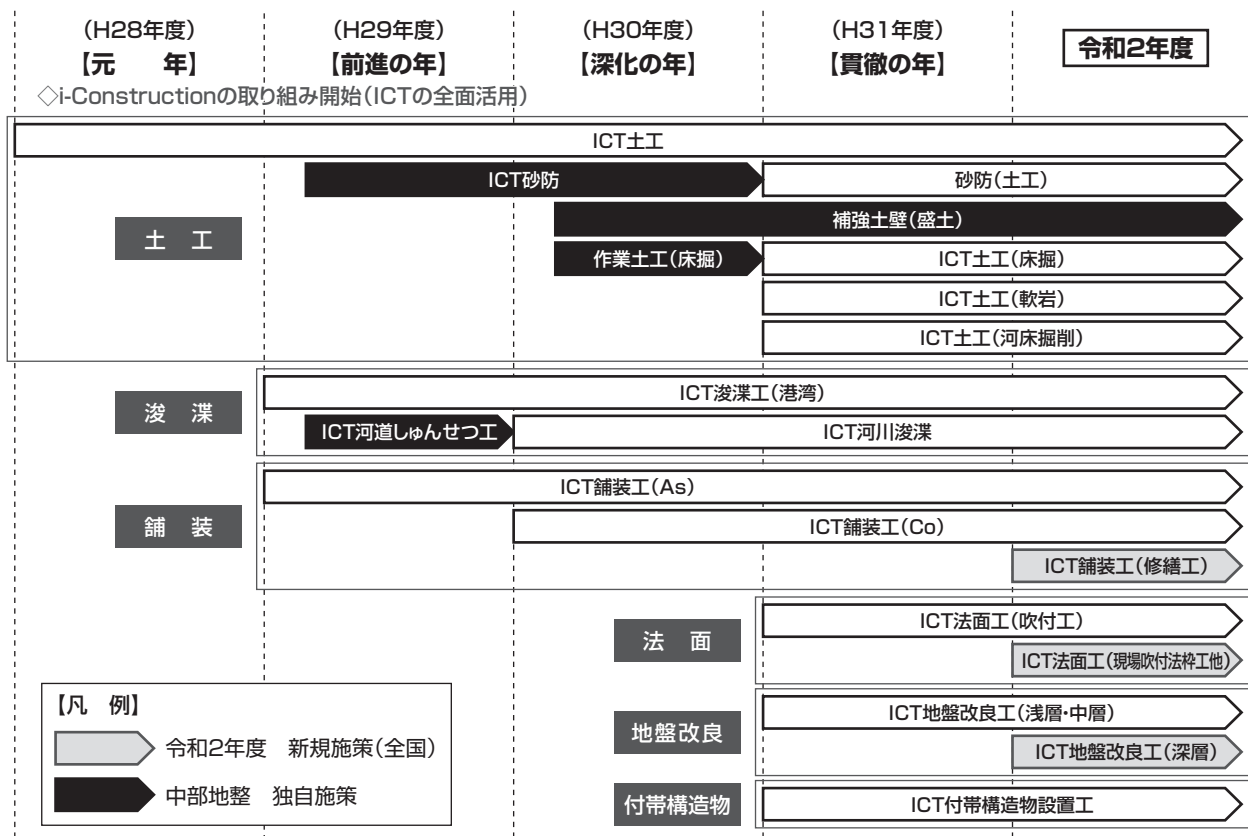
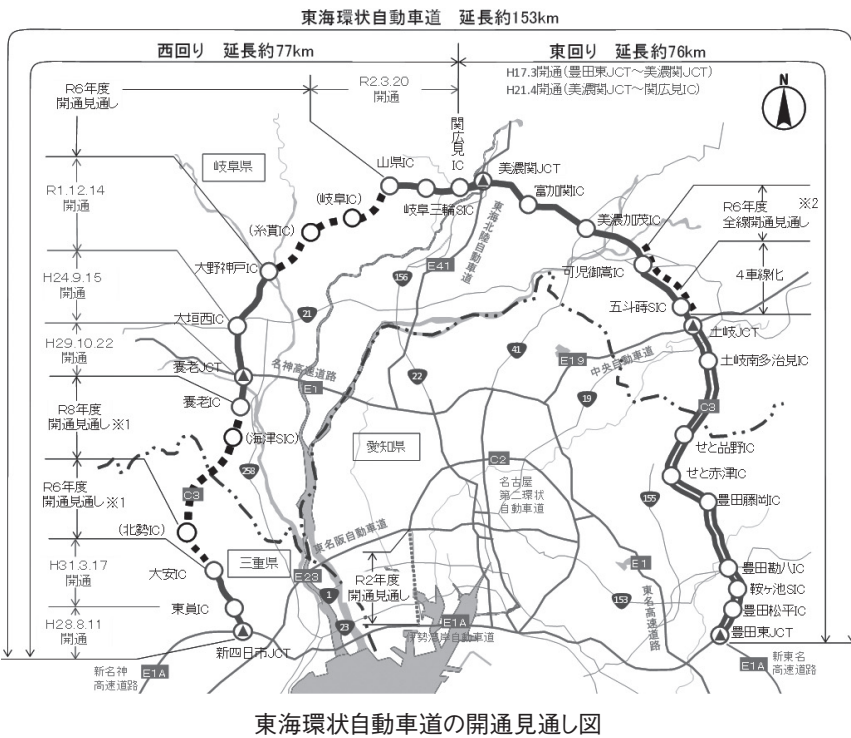
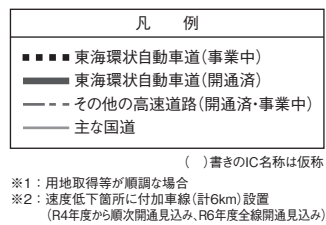


図-3 中部地方整備局のICT活用工事の工種拡大に向けたロードマップ

東海環状自動車道の開通見通しについて

1. 現状：

国道475号東海環状自動車道は、名古屋市を中心に半径30～40km圏に位置する道路で、愛知県、岐阜県、三重県の3県に跨り、新東名・新名神高速道路、伊勢湾岸自動車道、東名・名神高速道路や中央自動車道・東海北陸自動車道等の放射状道路を連結する、延長約153kmの高規格幹線道路です。これまでに、東回り区間の延長約76kmが開通しており、西回り区間では、延長77kmのうち、関広見IC～山県IC間（9.0km）、大野神戸IC～養老IC間（16.7km）が開通しており、三重県区間（7.8km）を含めて、現時点での東海環状自動車道の開通済延長は109.4kmとなり、約7割が開通いたしました。残る約43kmの未開通区間の早期の開通が望まれています。



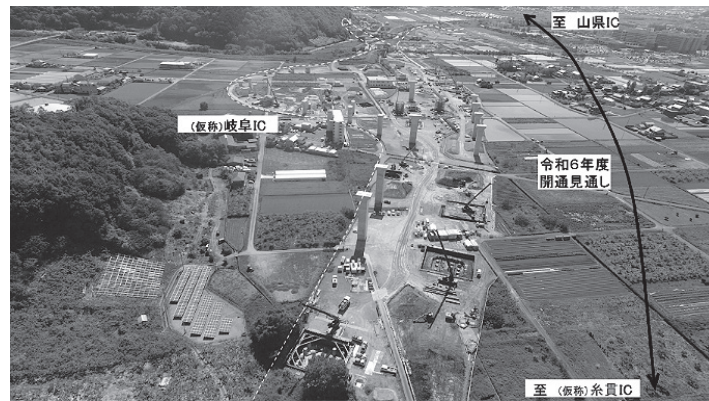
2.東海環状自動車道の未開通区間の開通見通しと整備状況：

山県ICから大野神戸IC間や(仮称)北勢ICから大安IC間については、財政投融資を活用した整備加速箇所として、国土交通省とNEXCO中日本において事業が進められているところです。

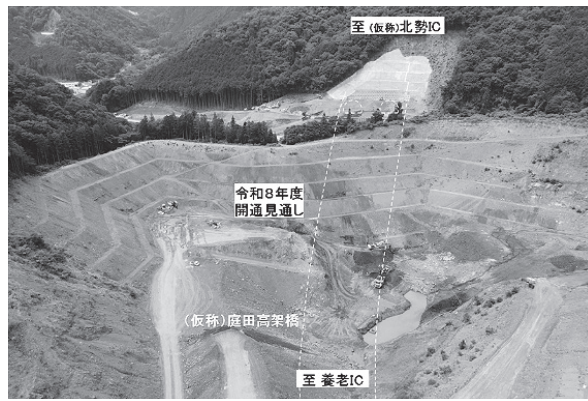
当該区間のうち、山県ICから大野神戸IC間については、令和6年度開通を目指して、現在、トンネル工事、橋梁下部工事、改良工事を実施しております。

また、最後の区間である養老ICから(仮称)北勢ICについて、あらたに令和2年3月に令和8年度の開通見通しを公表し、東海環状自動車道の全線開通時期が公表されたところです。

現在、令和8年度開通を目指して、橋梁下部工事、改良工事を実施しています。



(仮称)岐阜ICの状況

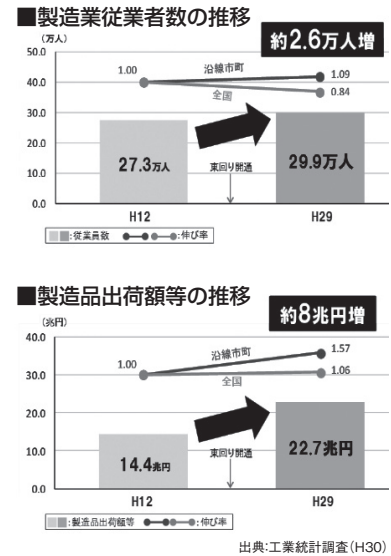
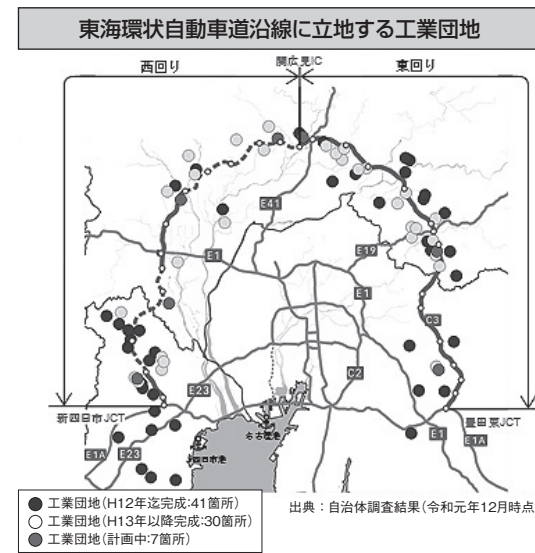


海津地区の状況

3. 東海環状自動車道整備による効果：

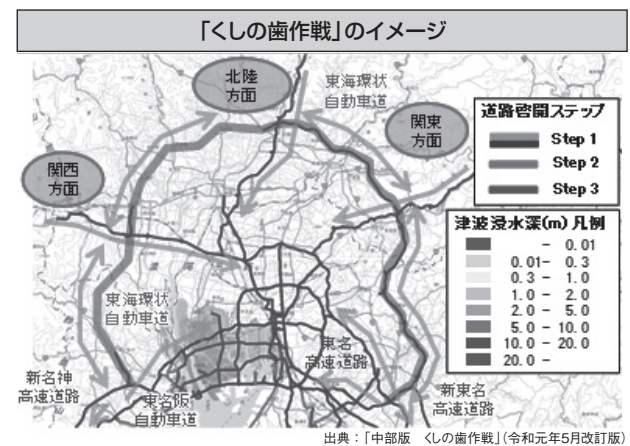
①企業立地の促進

- ・環状道路の整備により主要都市のアクセス性が向上し、民間投資が喚起され、沿線の開発拡充による地域経済の活性化が期待されています。また、東海環状自動車道全線着工(平成12年)後に工業団地が30箇所完成しており、沿線市町の製造業従業者数は約2.6万人増加し、製造品出荷額等は約8兆円増加しました。全線開通による更なる中部圏の発展が期待されます。



②災害に強い道路機能の確保<中部版「くしの歯作戦」>

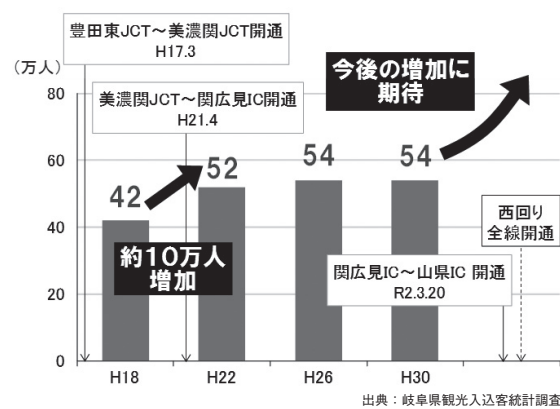
- ・東海環状自動車道は、災害リスクが高い地域を回避するルートや構造で計画されています。
- ・被災地域を支援する「くしの歯」の軸となる高速道路ネットワークが複数確保されており、災害時の迅速な道路啓開を可能とし、広域支援に寄与しています。



③観光(所有時間短縮と輸送効率向上)

- ・岐阜ファミリーパークでは、岐阜三輪スマートICの整備に合わせ公園施設の整備を推進しており、東海環状開通との相乗効果による観光客の増加が期待されます。
- ・大河ドラマ「麒麟がくる」の舞台となる岐阜県は、東海環状沿線の市町と連携し観光PRに取り組む等、東海環状道を活用した周遊観光の活性化が期待されます。

■岐阜ファミリーパーク入場者数推移



■NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の舞台となる岐阜県



産学官連携による将来の人材確保に向けた取組 ～あいち 土木の魅力・未来プロジェクト～

国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所長 五十川 泰史(プロジェクト事務局)

土木分野での担い手の確保は、少子高齢化の中で今後益々困難となることが必至の状況です。この課題は産学官共通であり、『土木』を将来の仕事の選択肢として認識してもらうため、その魅力とやりがいを伝える「あいち 土木の魅力・未来プロジェクト」を産学官共同で立ち上げました。

1. 背景

土木分野は、働き手の減少、高齢化が他の産業と比較しても顕著であり、若者の離職などの課題が指摘され、技術力の継承も危ぶまれる状況となっています。【図-1、2】

これに対して、生産性の向上や新技術の開発・活用等の促進、働き方改革等と合わせて、現場の見学・体験やインフラツーリズム、広報等を業界団体等と協力・連携して進めているところですが、個別の取組では注目度にバラツキがあったり、一過性のものとなりがち、「伝わる」広報となっているか?など、「担い手の確保」への効果が明確でないという課題があります。

また、ICT等を使いこなすことができる人材の確保・育成が必要であるなど、今後の土木分野に求められる人材像も踏まえた担い手の確保のための取組が急務となっています。

60歳以上の高齢者(82.8万人、25.2%)は、10年後には大量離職が見込まれる。
一方、それを補うべき若手入職者の数は不十分。

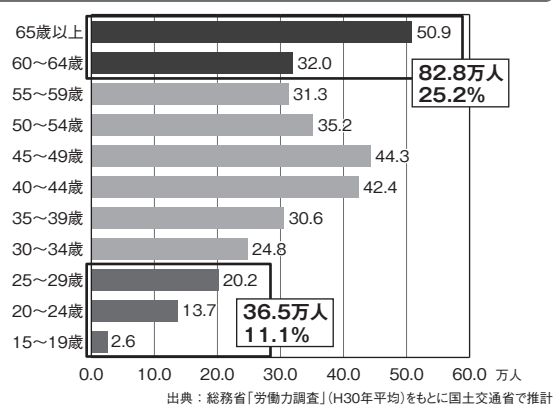


図-1 年齢階層別の建設技能労働者数

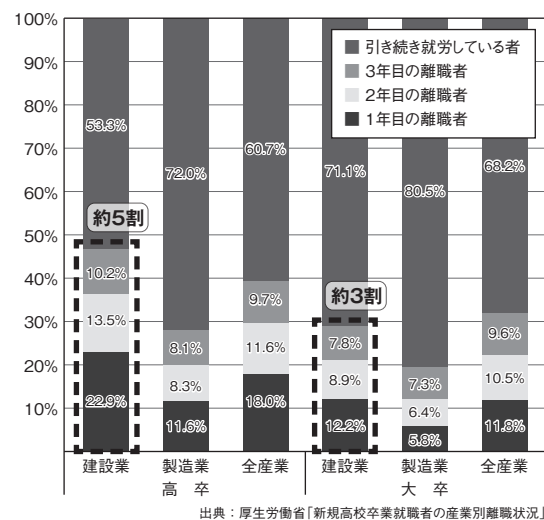


図-2 建設業における離職状況(3年目まで)

2. 契機

近年、土木技術者二人組で九州地方を中心に活躍中の「噂の土木応援チーム デミーとマツ」(以下、「デミーとマツ」)が、これまでの“見学”の枠を超えた参加者を惹き付けるイベントを展開してマスコミにも注目されるようになり、「土木広報大賞」(土木学会)で2年連続受賞するなどの活躍を見せています。

筆者は、令和元年6月に中部建設青年会議が主催した講演会でデミーとマツの話を聞いて衝撃を受け、真似はできないにしても、愛知県内の関係機関が連携することで効果的なプロジェクトになるのではないかと考え、これが、このプロジェクトを立ち上げる契機となりました。

3. コンセプト

このプロジェクトの目的は、これから職業を選択する世代に土木分野で働くことの『魅力』や『やりがい』を伝え、将来(未来)の仕事の選択肢として『土木』を認識してもらうことであり、産学官が連携することで各機関の取組の一体感・一貫性を高め、合わせて魅力ある仕事であることを強く印象づける(伝わる)体験となるよう工夫することで、注目度・認知度が高まる、印象・記憶に残る⇒効果が高まることを目指しています。

一方で、新たにイベントを企画・開催すること等は大きな負担となることから、当初からそのようなことは想定せず、プロジェクトに賛同頂くことによるゆるやかな連携としています。

4. 取組内容

以上のコンセプトを踏まえた取組内容として、以下を実施していきます。

①統一名称『あいち 土木の魅力・未来プロジェクト』の使用

- ・取組の記者発表や配付資料等にプロジェクト名を記載
- ・シンボルマーク、バナーの作成【図-3】
⇒参加機関の職員及びその関係者に募集し選定

②参加機関の取組についての情報の共有・提供

- ・ポータルサイトの設置
https://www.cbr.mlit.go.jp/meikoku/other/aichi_doboku/index.html
- ・関連イベント等の情報共有・提供
= 実績、予定について、開催概要・リンク先等を掲載
- ・SNSの活用

③取組の効果の把握・分析

- ・関連イベント共通で実施するアンケートを作成【表-1】

④取組拡大に向けた働きかけ

- ・令和元年11月11日に開催したデミーとマツ講演会と合わせてこのプロジェクトの立ち上げを宣言するとともに、業界団体等にこのプロジェクトへの参加の検討を依頼【表-2】

表-1 アンケート項目(案)

- ・今回の見学会の感想・理由
- ・「土木」に携わる職業を知っているか
- ・「土木」に携わる職業に魅力を感じるか・理由
- ・「あいち～プロジェクト」を知っているか
- ・今回の見学会をどのように知ったか
- ・属性(家族の職業、将来なりたい職業などを含む)

5. 結び

ウィズコロナ社会への対応も含めて試行錯誤しながらですが、産学官が連携したこのプロジェクトのこれからの展開に注目頂くとともに、ご理解・ご協力、ご指導等をお願いします。

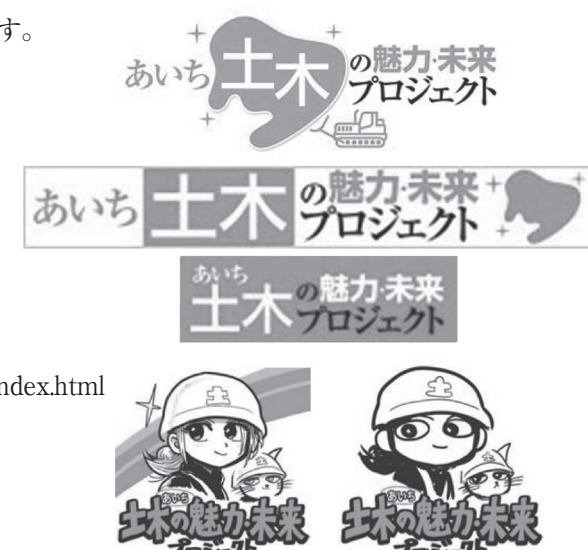


図-3 プロジェクトのシンボルマーク・バナー・キャラクター
(制作：森部 正康 氏、濱口 僚 氏)

表-2 参加機関(令和2年7月現在)

＜産＞
中部建設青年会議愛知県支部、 (一社)日本建設機械施工協会中部支部 ほか
＜学＞
土木学会中部支部、名古屋大学、名古屋工業大学、 中部大学、東海工業専門学校金山校
＜官(公益企業等含む)＞
国土交通省河川・道路系事務所、愛知県、名古屋市、 水資源機構、NEXCO中日本、名古屋高速道路公社 ほか
計30機関

企画部会

令和2年度建設機械優良技術員表彰

月 日：5月20日(水)
受賞者：優良建設機械運転員2名
優良建設機械整備員3名

広報部会

中部支部ニュース

8月上旬に発刊

技術・調査部会

ICTを活用した建設技術講師協力

月 日：7月22日(水)
講習会名：建設ICT普及研修
主 催：岐阜県
協力講師：サイテックジャパン(株)
ICT推進企画室長 鈴木 勇治 氏

施工部会

外国人技能実習評価試験

定期試験を7月までにキャタピラー教習所名古屋教習所で
3回、豊橋教習所で2回実施

災害対策部会

感染症拡大防止下における
大規模水害オペレーション訓練

月 日：5月24日(日)
出席者：コマツカスタマーサポート(株)中部C 児玉 浩 氏
会 場：中部地方整備局他4箇所
内 容：新型コロナウイルス感染症の拡大下で、超大型
の台風が東海地方に接近するケースを想定した
水害対策訓練を国土交通省中部地方整備局、
名古屋地方気象台、県、桑名市の四者がビデオ
会議システムを使って実施した。
当支部のコマツカスタマーサポート(株)がICT
施工による破堤箇所荒締め切り施工を紹介
した。

「広域災害等における災害対策用機械等の
運用支援に関する協定書」(中部地方整備局
中部技術事務所)に基づく出動

- 1) 令和2年7月豪雨災害九州方面への出動
出動期間：令和2年7月7日～21日
出動箇所：佐賀県久留米市及び熊本県人吉市等
出動車両：排水ポンプ車2台、照明車1台
出動会員：神野産業(株)、あおみ建設(株)名古屋支店、
大有建設(株)、(株)内田商会、
東亜道路工業(株)中部支社、
鹿島道路(株)中部支店、高田建設(株)、
五洋建設(株)名古屋支店、
大旺新洋(株)名古屋支店
- 2) 令和2年7月豪雨災害長野方面への出動
出動期間：令和2年7月10日
出動箇所：天竜川上流河川事務所小渋出張所
出動車両：照明車1台
出動会員：藤城建設(株)



熊本県人吉市での排水状況

令和2年度 各部会の行事予定

	春 (4月～6月)	夏 (7月～9月)	秋 (10月～12月)	冬 (1月～3月)	備 考
企画部会					
建設機械優良技術員表彰					表彰式は中止
公共工事(機械関係)の諸課題に 関する意見交換会			11月中旬		
広報部会					
支部ニュース		8月上旬			
支部だより			12月下旬		
工事現場見学会					中 止
建設施工研修会(映画会)					中 止
新機種・新工法発表会					会員会社の申込に より随時開催
技術・調査部会					
講演会					中 止
技術講演・発表会			11/25(水)		Web方式
iICTを活用した建設技術出前授業					申込により随時開催
iICTを活用した建設技術出前講習会					〃
施工部会					
建設機械施工技術検定試験(学科)			1級：10/11(日)	2級：1/17(日)	
建設機械施工技術検定試験(実技)		8/29(土)			
建設機械整備技能検定実技試験					中 止
道路除雪講習会			10/30(高山) 11/11(名古屋)		
災害対策部会					
愛知県ブロック前期 災害対策用機械操作訓練					中 止
愛知県ブロック後期 災害対策用機械操作訓練			11月		
災害又は事故における中部地方整備局所管 施設等の応急対策の支援に関する協定					災害応急支援随時
広域災害等における災害対策用機械 の運転支援に関する協定					災害応急支援随時

発刊図書一覧

(令和2年8月現在)

発行年月	図書名	一般価格(税込)	会員価格(税込)	送料
R 2年 5月	よくわかる建設機械と損料2020	6,600	5,610	700
R 2年 5月	大口径岩盤削孔工法の積算 令和2年度版	6,600	5,610	700
R 2年 5月	橋梁架設工事の積算 令和2年度版	11,000	9,350	900
R 2年 5月	令和2年度版 建設機械等損料表	8,800	7,480	700
R 元年 9月	大口径岩盤削孔工法の積算 令和元年度版	6,600	5,610	700
R 元年 5月	令和元年度版 建設機械等損料表	8,800	7,480	700
H31年 3月	日本建設機械要覧 2019年版	53,900	45,100	900
H30年 8月	消融雪設備 点検・整備ハンドブック	13,200	11,000	700
H30年 5月	平成30年度版 建設機械等損料表	8,800	7,480	700
H30年 5月	橋梁架設工事の積算 平成30年度版	11,000	9,350	900
H30年 5月	大口径岩盤削孔工法の積算 平成30年度版	6,600	5,610	700
H30年 5月	よくわかる建設機械と損料2018	6,600	5,610	700
H29年 6月	橋梁架設工事の積算 平成29年度版	11,000	9,350	900
H29年 4月	ICTを活用した建設技術(情報化施工)	1,320	1,100	700
H28年 9月	道路除雪オペレータの手引	3,850	3,080	700
H26年 3月	情報化施工デジタルガイドブック 【DVD版】	2,200	1,980	700
H25年 6月	機械除草安全作業の手引き	990	880	250
H23年 4月	建設機械施工ハンドブック(改訂4版)	6,600	5,604	700
H22年 7月	情報化施工の実務	2,200	1,885	700
H21年11月	情報化施工ガイドブック2009	2,420	2,200	700
H20年 6月	写真でたどる建設機械200年	3,080	2,608	700
H19年12月	除雪機械技術ハンドブック	3,143		700
H18年 2月	建設機械施工安全技術指針・指針本文とその解説	3,520	2,933	700
H15年 7月	建設施工における地球温暖化対策の手引き	1,650	1,540	700
H15年 6月	道路機械設備 遠隔操作監視技術マニュアル(案)	1,980		700
H15年 6月	機械設備点検整備共通仕様書(案) 機械設備点検整備特記仕様書作成要領(案)	1,980		700
H15年 6月	地球温暖化対策 省エネ運転マニュアル	550		250
H13年 2月	建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック(第3版)	6,600	6,160	700
H12年 3月	移動式クレーン、杭打機等の支持地盤養生マニュアル(第2版)	2,724	2,410	700
H11年10月	機械工事施工ハンドブック 平成11年度版	8,360		700
H11年 4月	建設機械図鑑	2,750		700
H 9年 5月	建設機械用語集	2,200	1,980	700
H 6年 8月	ジオスペースの開発と建設機械	8,382	7,857	700
H 6年 4月	建設作業振動対策マニュアル	6,286	5,657	700
	建設機械履歴簿	419		250

※価格には消費税(10%)が含まれております。 ※送料は複数冊の場合変わります。(単位:円)

問い合わせ先

(一社)日本建設機械施工協会 中部支部

名古屋市中区丸の内三丁目17-10 三愛ビル5階
TEL(052)962-2394 FAX(052)962-2478
http://www.jcmanet.or.jp/chubu

会 員 名 簿 (129社)

令和2年8月現在

電力会社(1社)

中部電力(株)	
---------	--

製造業(30社)

宇野重工(株)名古屋営業所 (株)荏原製作所中部支社 (株)共栄社 (株)クボタ中部支社 コベルコ建機日本(株)中部支社 佐藤鉄工(株)名古屋営業所 (株)三協メカニック (株)篠田製作所 ゼニヤ海洋サービス(株)東日本営業部東京営業所 ダイハツディーゼル(株)名古屋支店 大和機工(株) (株)拓和名古屋支店 (株)鶴見製作所中部支店 (株)電業社機械製作所名古屋支店 (株)西島製作所名古屋支店	仲山鉄工(株) 西田鉄工(株)名古屋営業所 日東河川工業(株)東海営業所 日本キャピラー(同) 日本車輛製造(株) 阪神動力機械(株) 範多機械(株) 日立建機日本(株)中部支社 (株)日立インダストリアルプロダクツ中部支店 日立造船(株)中部支社 豊国工業(株)中部支店 豊和工業(株) (株)前田製作所名古屋支店 (株)丸島アクアシステム名古屋営業所 (株)丸徳鉄工
---	---

建設業(73社)

アイトム建設(株) あおみ建設(株)名古屋支店 (株)安藤・間名古屋支店 石橋建設興業(株) (株)オカシズ 大林道路(株)中部支店 (株)奥村組名古屋支店 奥村組土木興業(株) (株)ガイアート中部支店 鹿島建設(株)中部支店 鹿島道路(株)中部支店 (株)加藤建設 加藤建設(株) 神野産業(株) 岐建(株) (株)キクテック (株)國井組 (株)熊谷組名古屋支店 (株)鴻池組名古屋支店 五洋建設(株)名古屋支店 (株)近藤組 佐藤工業(株)名古屋支店 (株)佐藤渡辺中部支店 山旺建設(株) サンリツ工業(株) (株)施設技術研究所 シブキヤ建設(株) 清水建設(株)名古屋支店 鈴中工業(株) 西濃建設(株) 大旺新洋(株)名古屋支店 太啓建設(株) 大成建設(株)名古屋支店 大日本土木(株) 大有建設(株) 高田建設(株) 中日建設(株)	中部ロード・メンテナンス(株) 東亜建設工業(株)名古屋支店 東亜道路工業(株)中部支社 東急建設(株)名古屋支店 東洋建設(株)名古屋支店 徳倉建設(株) 戸田建設(株)名古屋支店 飛鳥建設(株)名古屋支店 長坂建設興業(株) 中村建設(株) 名古屋電機工業(株)インフォメックス営業本部営業部 中部支店 西松建設(株)中部支店 (株)NIPPO中部支店 日本道路(株)中部支店 日本ハイウエイ・サービス(株)名古屋支店 日本ロード・メンテナンス(株)名古屋営業所 ノダック(株)中部事業所 (株)野田クレーン (株)フジタ名古屋支店 福田道路(株)中部支店 藤城建設(株) (株)不動テトラ中部支店 富士ロードサービス(株) 前田道路(株)中部支店 水谷建設(株) 水野建設(株) 三井住友建設(株)中部支店 みらい建設工業(株)中部支店 村本建設(株)名古屋支店 名工建設(株) 矢作建設工業(株) (株)山辰組 ヤマダインフラテクノ(株) 吉川建設(株)名古屋支店 若築建設(株)名古屋支店 (株)渡邊組
--	---

商事会社(6社)

(株)NTジオテック中部 英和(株)名古屋営業所 大竹建機産業(株)	コマツカスタマーサポート(株)中部カンパニー (株)千代田組中部支店 福井コンピュータ(株)中部営業所
--	---

機械整備業(4社)

住友建機販売(株)住友建機教習所 (株)整備工場東海葵工場	ブルドーザー整備(株) マルマテクニカ(株)名古屋事業所
----------------------------------	---------------------------------

コンサルタント業(4社)

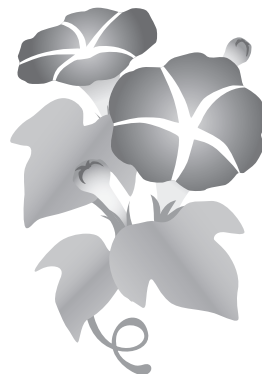
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング中部支社 エースコンサルタンツ(株)中部支店	(株)中部テクノス (株)日本インシーク名古屋支店
---	------------------------------

レンタル業(3社)

(株)アクティオ名古屋支店 瀧富工業(株)	西尾レントオール(株)中部支店
--------------------------	-----------------

その他(8社)

(株)内田商会 (株)建設システム サイテックジャパン(株) (株)シーティーエス名古屋支店	玉野総合コンサルタント(株) (株)東京建設コンサルタント中部支社 (株)トプコンソキアポジショニングジャパン名古屋営業所 (一社)日本鋼構造物循環式プラスト技術協会
---	--



編 集 後 記

2020年、誰がこのような年になると想像したでしょうか?「新型コロナウイルス感染症」が世界中に感染拡大しました。楽しみにしていた56年ぶりの東京オリンピックは一年延期に。緊急事態宣言に伴う外出自粛要請などにより、暮らしや仕事のやり方は大きく変化しました。さらに、このコロナ禍でも毎年容赦なくやってくる豪雨により九州や中部で大規模な災害が発生。2020年は「コロナ禍+豪雨禍」に。なんて年だ!

さて第39号では、新型コロナウイルス感染拡大防止により最少人数で開催された「第9回支部通常総会」の様子や、i-Conの更なる推進へ向け5月に設立された「中部i-Constrection研究会」のニュース、そして、いつ開通するのかとっても気になる「東海環状自動車道の今後の開通予定」などについて掲載しました。

今のところ「新型コロナウイルス感染症」の終息は全く見えませんが、会員みなさまにおかれましては、3密を回避するなどWITHコロナの「新しい生活様式」を早く身に着けてコロナ禍に負けないよう頑張りましょう。

編集部一同